

令和7年度 第3回 羽曳野市地域福祉推進委員会・羽曳野市地域福祉活動計画推進委員会  
(議事要旨)

日程

令和7年12月22日(月) 10時00分～12時00分

会場

羽曳野市役所 別館2階 研修室

出席委員

新崎委員、吉田委員、通堂委員、阪本委員、齋藤委員、山本委員、木村委員、  
上田委員、上間委員、佐藤委員、村本委員、猪砂委員、麻野委員、中野委員、  
松下委員、奥野委員、芝池委員、杉本委員、南里委員、宮井委員、梅本委員、  
秋田委員、小池委員、浦田委員、尼丁委員、

次第

1. 開会
2. 諮問(諮問書の交付)
3. 市長挨拶
4. 委員長挨拶
5. 第5期羽曳野市地域福祉計画・第5期羽曳野市地域福祉活動計画の素案について
6. パブリックコメントの募集について
7. その他
8. 閉会

## 議事要録

### 1. 開会

### 2. 諮問

市長より委員長に諮問書を手交

### 3. 市長挨拶

### 4. 委員長挨拶

### 5. 第5期羽曳野市地域福祉計画・第5期羽曳野市地域福祉活動計画の素案について

第5期羽曳野市地域福祉計画・第5期羽曳野市地域福祉活動計画の素案について事務局（羽曳野市）より説明

（委員長）

- ・この5年間で施策が大きく変わった。羽曳野市では小学校区で「ふれあいネット雅び」が2014年から行われていて、今回のアンケートで15%の認知度があった、前は2.3%ということで、大きく伸びている。他県、他市では市域で行ったものを中学校区へ、そこから小学校区へとトップダウン型の地域づくりだが、羽曳野は小学校区で、一番身近なところでそういった仕組みを作っていく、その中できめ細かい生きづらさを抱えている方々、重層的支援体制整備事業はいわゆる相談があった方に対して行う支援を超えて、住民や民生委員・児童委員の方々から相談があったことを受け止めていくコミュニティソーシャルワークを含めての事業。
- ・コミュニティソーシャルワーカーも3名から6名に増員された。まだ十分ではないかもしれないが、これから5年間の取組を充実させていこうというもの。

地域福祉活動計画、アクションプランについて、事務局（社会福祉協議会）より説明

（委員）

- ・民生委員・児童委員の実態でどんな活動をしているかについて、令和7年度12月1日時点で定数188名のところ157名、83.5%の充足率。31名が欠員。活動も、以前のことを思うと増えてきており、その中でどうしたらいいかということで、今回40名足らずの新人も入っていますが、民生委員・児童委員になっていただける方が少なく厳しい状況であるということを報告する。

（委員長）

- ・セルフネグレクト、ご本人から困りごとをなかなか相談してもらえないということで、本人や家族からの申請が無ければ支援につなげなかったというところを何とか改善していこうと

ということで、地域福祉計画の中では重層的支援体制整備事業を動かしていくということ。

- ・地域福祉活動計画、地域福祉計画と一体化して行うには、メリットの一方でデメリットもあるといわれる。行政計画である地域福祉計画と社協が住民と作る活動計画の差異があまり見えないということが第4期の反省としてあった。今回、地域福祉活動計画は3つのことが改善されていると思う。1つは住民が近づきやすい柔らかい表現で、書きぶりが4章とは違っている。2つ目は校区福祉委員会活動計画、小学校区アクションプラン、14地区それぞれ、羽曳野市と言っても校区によって課題が違ったり思いが違う。14校区の地域特性を生かした計画を立てているところも、非常に大きな違いであり、大変な労力であったかと思う。3つ目は計画の評価。行政計画はタスクゴール、どういった計画ができ、人員配置や組織が変わったかというタスクゴールに重きを置くが、地域福祉活動計画では3つのゴール。1つはこういうことをやるという目標、タスクゴール。5年間のプロセスを丁寧にみていくプロセスゴール。そして、結果として5年間の取組の中でどんなつながり、ネットワークが生まれたかというリレーションシップゴール。その3つを打ち出した。
- ・今回の計画の中では重層的支援体制整備事業、小学校区アクションプランは大きな目玉として、報告できるのではないかと考えている。

(委員)

- ・「ふれあいネット雅び」の認知度が上がっているということで、素晴らしいと思い感謝している。顔ぶれが同じ方がどこにも参加してがんばっているということもお見受けする。特定の方に負担がかかることのないように、いろんな方に参加してもらえる呼びかけや働きかけを進めていただければと思う。
- ・ボランティアや活動に参加しない理由に「きっかけがない」ということがあり、それが3割以上あるので、きっかけづくりを考えていただければと思う。

(委員)

- ・一般に問題を抱えていてもわからない方が多いのではと思う。核家族になって若い世代が増え、近隣でのコミュニケーションが取れていないことも多くある。こういう活動をやっている、こういう委員会があって皆さんのためにやっているということを知らせていかないとけないと思う。

(委員長)

- ・今後、意見を踏まえて修正し、その計画の素案でパブリックコメントを行うことになる。今日の意見をふまえた修正については委員長、副委員長と事務局に一任いただいてよろしいか。

【異議なしの声】

## 6. パブリックコメントの募集について

パブリックコメントについて事務局（羽曳野市）より説明

(副委員長)

- ・小学校区アクションプラン策定の懇談会に出させていただいた。今回参加したところでは地

域の方に広く声かけしていただいていた。その中には若いご夫婦や学校の校長先生など、これまで福祉の計画に携わることがなかなかなかった皆さんも来ていただいた。その中でこんなまちを作りたい、こんなことが気になっているという話がたくさんあった。計画を作ることが目的ではなく、この町を誇りあるまちにするにはどうしていったらいいか、今までの狭い福祉、サポートが必要な方へのサービスの話だけではなく、みんなの町としてどうしていくかということ動かす足がかりになったと思う。これをどう生かしていくか、どう広げていけるか、そんなことをいろんな人と話していける、そんな計画にしていければと思う。

(委員長)

- ・無関心、福祉にかかわっていただかない方が増えている現状がある。参与、参加、参画、敷衍は低く志は高く、いつもお伝えしている。ちょっと面白そう、楽しそうというところから無関心の方が福祉に興味を持っていただき、そこから参画、計画にまでかかわっていただく、そういった形のしくみづくり、そのために小学校区の中でそれぞれの地域の特性を生かした小地域計画、アクションプラン、まさに「ふれあいネット雅び」というところの利点を生かした計画になっていくのではと思う。
- ・計画はスタート。ゴールは5年後に、こんな風が変わった、こんなことができたというように、進捗状況を確認し合いながら、5年後に素敵な計画ができたというところにつなげていきたいと思う。

## 7. その他

(羽曳野市保健福祉部長)

閉会の挨拶

## 8. 閉会